

日 時 平成24年9月11日(火) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 中 田 博 文	2番 工 藤 和 行
3番 黒 石 ナナ子	4番 今 井 敬
5番 工 藤 禎 子	6番 佐々木 隆
7番 後 藤 秀 憲	8番 大久保 朝 泰
9番 大 溝 雅 昭	10番 工 藤 俊 広
11番 工 藤 和 子	12番 山 田 鉦 一
13番 福 士 幸 雄	14番 北 山 一 衛
15番 村 上 啓 二	16番 村 上 隆 昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 鳴 海 広 道	副 市 長 玉 田 芙佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	総務課長兼検査指導監兼 震災支援対策室長兼 選挙管理委員会事務局長 阿 保 正 一
人 事 課 長 沖 野 恵美子	市民環境課長 福 士 勝 彦
企 画 課 長 千 葉 毅	財 政 課 長 鈴 木 正 人
税 務 課 長 長谷川 直 伸	福祉総務課長 鎌 田 幸 男
農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 純 一	商工観光課長 松 井 良
建 設 課 長 村 元 茂	農業委員会会長 佐 山 秀 夫
選挙管理委員会 委員長 乗 田 兼 雄	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 長 篠 村 正 雄	教 育 長 横 山 重 三
教 育 部 長 久 保 正 彦	教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長 小田切 敦
学校教育課長 奈良岡 和 保	黒 石 病 院 事業管理者 柿 崎 武 光
黒 石 病 院 事務局長 沖 野 俊 一	

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成24年第3回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成24年9月11日(火) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長	境 裕 康
次 長	三 上 亮 介
次長補佐兼議事係長	太 田 誠
主 査	今 正 樹

会議の顛末

午前10時02分 開議

◎議長(中田博文) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(中田博文) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

5番工藤禎子議員、10番工藤俊広議員を指名いたします。

◎議長(中田博文) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

8番大久保朝泰議員の登壇を求めます。8番大久保朝泰議員。

登壇

◎8番(大久保朝泰) 皆さん、おはようございます。自民・公明クラブの大久保朝泰でございます。昨年、3月11日の東日本大震災から1年半がたち、被災地の方々には改めて御見舞い申し上げます。

7月の黒石地区消防事務組合の研修で、当市の姉妹都市である宮古市を訪問してまいりました。昨年の10月以来の訪問でありましたが、昨年の状況に比べると多くの試練や悲しみを乗り越え、着実に復興・再生に向けた取り組みが進められている様子を確認することができました。津波の影響を受けて使用できなかった庁舎の1階ロビーが、訪問前日に新しくオープンされ、港のワカメ加工工場が新設されるなど少しずつではありますが、復興が着実に進展している姿を見て、ほっと胸をなでおろしました。しかし、宮古市を離れ、大槌町、山田町を訪れると風景は一転し、依然として厳しい状況が続いていました。1年半たった今もあちらこちらに瓦れきの山が残されたままの状態、あたりは何もなく閑散として、震災の爪跡が当初のまま

残っている状態を見て言葉が出ませんでした。私は被災地の格差拡大が鮮明になっている現実を目の当たりにして、一日も早い復興を願うとともに地域間の格差是正に向けた対応と被災地への継続的な支援を行っていかねばならないと再認識いたしました。

さて、季節はいよいよ実りの秋を迎えます。いち早く風評被害を克服し、東北地方そして日本の大地の恵みを世界に発信していくためにも、すべての農作物が豊作でありますよう心より願っております。また、ことしの大雪やこの夏の猛暑の影響で農作物に被害が出ることはないよう、津軽平野の五穀豊穰を祈念いたすところであります。

では、質問に入ります。

ことしも東北各地の夏祭りは、「がんばろう東北」を掲げ、復興を願い例年以上に熱い夏祭りとなりました。そして我が黒石市においても、黒石ねぶた、黒石よされ、ふるさと元気まつりなどが開催されました。これまでも黒石市の活性化を図る対策の1つとして、黒石ねぶたや黒石よされなどいろいろな媒体を活用し、黒石市を宣伝・アピールすることの必要性について、さまざまな提言をしてまいりました。その活動の1つとして、8月4日に愛知県稲沢市平和町で第14回サマーフェスタへいわが開催され、黒石ねぶたが披露されました。

愛知県稲沢市について紹介いたしますと、愛知県の北西部、濃尾平野のほぼ中央に位置しており、かつて尾張国の政治・文化の中心地として国府が置かれ、東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町としてにぎわった所でございます。また、古くから野菜、植木、苗木などの生産地として発展し、近年、名古屋市から20キロ圏内の交通利便のまちとして、ソニーグループや豊田合成などの工場が多く、住宅や大型集客施設の建設が進んでいます。また、2005年（平成17年）4月1日、稲沢市・祖父江町・平和町が合併し、人口が約13万8,000人となった都市であります。合併後も稲沢市平和町商工会では、毎年8月の第1土曜日に「サマーフェスタへいわ」を実施しており、大人から子供まで楽しめる地域に根づいた祭りとして定着しています。ことしの祭りでは、東日本大震災復興を願うとともに、地域の活性化にもつなげたいという思いで、初めて黒石の扇ねぶたを展示し、黒石市の紹介をしていただきました。会場の中央で明かりがともされたねぶたを見上げる人々からは、「初めてねぶたを見て感動した」、「思っていた以上に大きくて迫力があつた」、「色彩が鮮やかでとてもきれい」、「今度は実物を見に行きたい」など、たくさんの声と拍手をいただき、改めて黒石ねぶたのすばらしさを実感することができました。祭りでは、三味線奏者の渋谷幸平氏による三味線ライブ、津軽民謡歌手の須藤かすみ氏による民謡ライブが行われ、会場は大いに盛り上がりを見せました。また、大治太鼓保存会のメンバーの方々が黒石のねぶたばやしを披露し、黒石ねぶたのPRもしていただきました。祭りには、大野稲沢市長、渡辺市議会議長、田島商工会会長を初めとして多くの来賓が参加され、黒石市からは玉田副市長、中田議長ほか計五名が参加し、和やかに交

流を深めることができました。来年はことしの扇ねぶたに加え、黒石の人形ねぶたの展示・運行も計画されています。

このような交流は、黒石市にとって大いに歓迎すべきことであると思います。ただ、黒石市の現状を見ると、ことしもねぶた祭りへの参加数は67台と昨年より2台減少しております。今年から人形ねぶたの補助金が復活し実施されましたが、少子化の影響などから来年はさらに減少することが予想されます。この状況が続けば、黒石市のねぶた祭りが廃れていくばかりか、黒石のねぶたを各地域の祭りに活用している羽衣ねぶた、中延商店会などにも影響が出てくると考えられます。以前、今後の黒石ねぶた祭りの将来の方向性・展望について、関係部門・関係者が検討をしていかなければならないと提言しましたが、その結果がなかなか見えてきません。これは何もねぶた祭りだけではなく、黒石よされ祭り、その他にも言えることだと思います。行政は、予算づけをするだけではなく、もっと実行委員会との連携を図り、祭りのあり方などについて積極的に関与、支援していく必要があると思います。

また、黒石市はことしの愛知県稲沢市を初め、東京都立川市羽衣ねぶた会、品川区中延商店会などねぶたを通じた交流を深めており、ねぶたの魅力を広める取り組みをしています。昨年のデータによると、全国でねぶた・ねぶたを取り入れた祭りは県内を除いて13都道府県、約25団体で開催され、今や北は北海道、南は九州まで広がっております。

昨年2月11日には、青森市が主催のねぶたサミットが開催され、全国から23団体が参加しました。全国に広がりを見せるねぶたを通じての意見交換、多様な交流のきっかけを目的として行われたサミットですが、その後の予定はありません。私は、このような素晴らしい企画がこのまま一過性のもので終わってしまうことが大変残念でなりません。全国的な交流の場をぜひ黒石市が先頭をきって呼びかけ、ねぶたサミットを開催すべきと考えます。そして、全国的なネットワークづくりこそが今後の黒石市全体の祭りにとどまらず、観光、商業、農業において黒石市の活性化にプラスになると確信しております。

以上の事柄を踏まえ、理事者のお考えを3点お伺いいたします。

1つは、愛知県稲沢市との今後の交流のあり方について、お伺いいたします。

2つは、黒石市の祭りに今後行政がどのようにかかわっていくのかについて、お伺いいたします。

3つは、黒石市が主催してのねぶたサミット開催について、お伺いいたします。

次の質問に入ります。

平成24年度決算において、一般会計は約4億5千万の黒字となりました。厳しい財政運営の中ではありますが、少しずつ明るい兆しが見えており、平成27年度全会計の黒字化を目指している状況であります。しかし、黒石市の人口は2004年を境にして人口が4万人を割り

込んで、現在では3万6,000余りと減少しております。そして、確実に黒石市の高齢化は進み、平成23年度の高齢化率は25%でここ数年のうちには30%を超え、少子高齢化へと向かっております。その原因の1つは、若年層の雇用問題があります。地域で働きたくても雇用の場が少なく、最近では農業就農者が若干増加していますが、若年層の人口流出に歯どめがかからない状況が続いております。

私は以前からこの状況の解決策として、企業誘致の推進の必要性を訴え、企業誘致に対する諸問題を解決する必要性と、黒石市のさまざまな媒体をフル活用する必要性を提言してきました。しかし、世界の経済環境は流動的であり、日本国内においても企業誘致には決して恵まれた状況ではありません。黒石市の状況を見ても、なかなか企業誘致には結びついておりませんが、今後も根気よく進めていく必要があります。また、私は以前広域的な企業誘致活動の必要性も提言してきましたが、今議会に提案されている弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定書において、「地域の雇用確保及び経済の活性化を図るため、圏域市町村と立地に係る情報を共有し、圏域全体としての立地環境、魅力や強みを企業へ情報発信するなど、圏域一体となった企業誘致活動を展開する」という点は、一步踏み込んだ内容であると評価しております。

また、企業誘致に必要な用地取得にも、民間からの情報提供に努めるなど、少しずつではありますが前進しております。しかし、目に見える形で着実に成果を上げていくことが大切だと思います。その中、先月誘致企業の1つである並木精密宝石株式会社青森黒石工場にて、新たな試みがなされました。それは本社機能の実施訓練というもので、災害など緊急時の本社業務維持シミュレーションを行うことによって、どんな状況下でも安定供給を約束できるメーカーであることをアピールする目的で実施され、東京本社の社員240人のうち60人が青森黒石工場に約3週間滞在しました。今回の並木精密宝石と同じように、危機管理体制の構築を考えている企業は少なくないと思います。既に多くの企業では、都市部から地方へと本社機能・重要施設を移行・移管する動きが見られます。この背景には東日本大震災や電力不足対策、タイの洪水などが大きな要因となっており、さらに首都直下型地震の発生確率が高まっていることも要因の1つであります。

このようなさまざまな企業ニーズを行政が把握し、個々のニーズに応じた戦略的な支援をしていくことが企業誘致推進の新たな取り組みの1つになると思います。また、既に黒石市にある誘致企業に対して、危機管理体制の構築などを行政が積極的に働きかけていくことも重要であると考えます。そうすることによって、地元自治体との信頼関係を向上させ、積極的な地域交流が図られ、結果、地域経済の活性化につながると考えます。

以上の事柄を踏まえ、理事者のお考えを3点お伺いいたします。

1つは、今回の並木精密宝石青森黒石工場の本社機能実施訓練の経緯について、お伺いいた

します。

2つは、現時点での企業誘致の状況と今後の取り組みについて、お伺いいたします。

3つは、既存する黒石市の誘致企業に対する行政の働きかけや支援について、お伺いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 自民・公明クラブ大久保議員には、私からは企業誘致について、現時点での企業誘致の状況と今後の取り組みについてお答えを申し上げます。

現在、本市工業団地は一部賃貸を除き完売したことから、企業誘致の対策につきましては近隣市町村の不動産業者が管理している物件を調査・データ化し、県や企業からの問い合わせに対応するなど、条件に見合った民有地を紹介できる態勢になっているほか、県と連携しながらホームページで物件を紹介するなど、黒石市をPRしております。今年度から不動産業者に管理依頼していない個人所有の空き物件の情報収集を行っており、有効活用できそうな物件をこれまで以上に調査しているところであります。さらに、弘前圏域定住自立圏構想の産業振興分野において、圏域で積極的な企業誘致活動を展開するため、情報共有や企業立地イベントへの出展等を検討しております。

また、近年は留置活動が重要であると考えており、操業している企業の本社等への訪問も行き、コミュニケーションを図りながら、今後もできることから実施してまいりたいと考えております。以上であります。

降壇

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からはまず黒石市の活性化に関して、黒石の祭りについてお答えいたします。

まず、1点目の愛知県稲沢市との今後の交流のあり方についてでございますが、本年の8月、愛知県稲沢市平和町で開催された第14回サマーフェスタへいわで、大久保議員の仲介が身を結び、黒石ねぶたが展示されて大盛況であったとうかがっております。今日まで首都圏でのねぶた交流はありましたが、中京圏の稲沢市と交流ができることは誠にありがたく、今後ともよいおつき合いをしてまいりたいと考えております。

次に、黒石ねぶた、黒石よされ等の祭りへの行政のかかわりについてであります。今後は祭り将来の方向性やあり方について、黒石青年会議所、また黒石よされ実行委員会等と協議し、

積極的に総括しながら議論してまいりたいと考えております。

御提言のねぶたサミット開催については、地域の活性化につながるものと考えますので、広域的な開催も視野に入れながら検討させていただきます。

次に、企業誘致に関してまず1点目、今回の並木精密宝石株式会社青森黒石工場の本社機能実施訓練の経緯についてでございますが、首都圏直下型大地震等の緊急時、円滑に業務を継続するための実践訓練と夏場の電力対策を兼ねて、本社疎開という危機管理やリスク分散のシミュレーションを実施したものとかがっております。シミュレーションの結果、災害時に本社機能を失っても物資の輸送や仕入れなどの事業点検も行うことができ、問題なく代替機能が発揮されたとのことでございます。また、本社と黒石工場とのコミュニケーションも上々で、仕事もしやすくなったとかがっております。今後の課題としては、実際に災害が発生した際にどのように今回の体制にもっていくかと、冬期間での対策も検討しなければならないとのことでございました。

次に、既存する黒石市の企業誘致に対する行政の働きかけや支援についてでございますが、昨今の企業情勢は世界的な金融危機や円高等の影響により大変厳しい状況が続いており、経営面やリスク分散の観点から海外移転計画の傾向にあるとかがっております。そのため、当市でも先ほど市長も答弁いたしました留置活動を重視し、本市の誘致進出企業の皆様には各種制度の積極的な情報提供などに努めております。また、平成23年8月「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」いわゆる第2次一括法が交付となり、工場立地法に関して今年度4月から緑地面積等に係る地域準則の制定権限及び関連事務の全てが市に委譲されたことから、設備投資や事業規模拡大に向け立地企業の敷地等を有効的に活用していただき、雇用の増加にもつながるように、市では緑地面積率等の緩和について検討しているところでございます。以上であります。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） 御答弁ありがとうございました。ねぶたサミットについては、ぜひ実現していただきたいと期待いたしております。

また、稲沢市については、7月に黒石と平和町商工会の交流をバックアップする目的で、稲沢市議会議長を初めとする誠和会7名が黒石に宿泊し、行政視察をしました。また、9月1日の広報いなざわの表紙には「サマーフェスタへいわ」で披露された黒石ねぶたの写真が大きく掲載されております。やはり、このような機会を生かし、今後も愛知県稲沢市と文化・観光・経済などのこの幅広い分野で交流を深めていくことが必要ではないかと考えます。そして、交

流を積み重ねることによって、先ほど部長が述べたように黒石の魅力をアピールし、今後さらなる中部圏の開拓へとつながっていくものと考えております。来年はぜひ市長にも稲沢の「サマーフェスタへいわ」に参加されますことを期待いたしますので、よろしくお願いいたします。

また、ねぷた運行の件で先に述べたように、運行台数が毎年減少しております。このことによってねぷた運行に参加できない子供たちもふえております。今までは、市役所そしてことしからは青年会議所も受け皿となって対応してきましたが、やはり今後この対応について行政側としてもどう考えるのか、その辺お伺いしたいと思います。

企業誘致の件については、今後とも根気強く誘致活動されますことをまずは期待いたします。そして黒石市は災害の少ない地域であるということで、首都機能の一部転換などリスク分散の候補地として最適であるということを今後の誘致活動のセールスポイントに加えるべきだと思いますので、その辺よろしくお願いいたします。また、当市では毎年誘致企業懇談会を行っておりますが、その中で各企業が抱える問題や行政に対する要望などが寄せられていると思いますが、それらの内容を具体的に説明していただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

◎議長（中田博文） 市長。

◎市長（鳴海広道） 大久保議員からは、これからのイベント。黒石の特によされ・ねぷたがこのままでいいのかとそういう御提言、私もこのままではいいと思いません。これから何を伸ばしていかなきゃならないのか、何を改革していかなきゃならないのか、今ほど真剣に議論しなきゃならないときはないのではないかとそういう観点に立っております。行政がどの辺までかわることが正しいのか、これもまた私はいろんなところでは議論の分かれるところだと思います。祭りはその地域の主体性、特徴をどう生かすか、上からではなくみんなが楽しむという、そして黒石の活性化にどうつなげていくのかということを考えれば、大変そこには私は慎重でなければならぬし、あるときはまた行政が大胆に入っていかなければならないときもあるのではないかとそういうふうに考えております。

ところで、今回稲沢市サマーフェスタ大変御苦労さまでした。私は都合で副市長が出ましたけれども、その責任を果たしてきたということ。しかも、先ほど部長から御答弁がありましたように、今までは中延、立川の羽衣町、関東が中心でしたけど今回、中部が初めてねぷたを取り入れる。お話を聞くと来年はさらに人形ねぷたでにぎわす。まさにこれは黒石を情報発信する最大の私はチャンスだと思いますので、どうかこれからもお互いに連携を取りながら黒石というまちをあの愛知県、中部にPRできるという私は本当にいいチャンスではないのかなあとそう思います。大久保議員の奥さんも愛知県だそうでちょうどいいなあとそう思いますので、

これからも御理解と色々な連携をとりながら頑張っていきたいなあとそう思っています。終わります。

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 祭りに関して、ねふた運行をやめた町内会の子供たちが参加できる受け入れ体制の検討ということでございますが、ねふたを製作していない町内会の子供の参加受け入れにつきましては、ことしの場合67団体中30団体が受け入れ協力し、6団体で数十名が自由参加しているとうかがっておりますので、来年も引き続き受け入れ団体を募るなどの環境整備について、黒石青年会議所と協議してまいりたいと考えております。

次に、企業誘致懇談会における企業からの問題提起や行政への要望ということでございますが、企業からこれまで人材育成やメンタルヘルスについて、また昨年は特に東日本大震災に係る電力不足や防災についての講演・情報交換の希望があったことから、市ではこれまでその意向に沿って従業員のメンタルヘルスの講演、昨年度は東日本大震災の影響等による電力需給状況等についての講演を行っております。企業間同士の情報交換もその際実施しておりますが、今年度は企業向けの、議員から御提言のあった防災についての講演を予定しております。また、企業はグローバル社会に対応できる語学、特に英語の達者な即戦力の人材を採用したいとの意見もあることから、各高校等の進路指導担当者にもこうした情報を伝えているところでもございます。以上であります。

◎議長（中田博文） 以上で、8番大久保朝泰議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 次に、3番黒石ナナ子議員の登壇を求めます。3番黒石ナナ子議員。

登壇

◎3番（黒石ナナ子） お暑い中、ありがとうございます。改めましておはようございます。自民・公明クラブの黒石ナナ子でございます。このように一般質問をさせていただく機会を得て、光栄に存じております。通告に従いまして進めてまいります。理事者側の誠意ある御答弁をよろしく願いいたします。

あずましの里黒石の夏祭りは黒石の華です。ねふた祭り、本年初の試み中野川の川床、よされ踊り、大川原の火流し、浅瀬石川を舞台とした元気まつりに灯籠流し。暑さとともに夏祭りも終わり、そぞろ涼風に乗って虫の音が聞かれるころと思っておりましたが、残暑が猛暑となって蝉が鳴きやまないいきょうこのごろでございます。世界的に天地異変が感じられ、特に本年は西暦2012年、壬辰閏年、うるう年でございます。雷が多く、電気分解された栄養満点の雨のせいでしょうか山々の緑が量も多く、とても美しく輝いて目に映るのは私だけでしょうか。

これからの紅葉が楽しみなところがございます。自然環境資源、歴史文学、文化とよそには見られない奥深さがあるふるさと、この地に生まれたことに幸せを感じ、訪れた人にも、安心・安全なあずましの里黒石に来てよかった、また来たい、住みたいと喜ばれる元気円満な市にしたい、その思いは今も変わっておりません。はるか遠い昔から、都から多くの旅人を迎え入れた津軽黒石の里です。旅には人生を変える不思議な力があると思っております。あずましの里黒石には、自然環境資源が満ちあふれており、旅のお客様がどの角度から訪れようとも、私たち黒石市民は大人も子供も何のためらいもなく、おもてなしができるかと私は確信しております。

観光振興の一節から、質問に入らせていただきます。

私から申し上げるまでもなく、黒石市内は観光資源が豊富であり、それらを有機的に生かすことこそ、黒石市の活性化につながるものと考えているところがございます。

まず1点目は、中野もみじ山新事業についてでございます。

清流中野川ともみじ狩りの川床について、県内を代表するもみじの名所中野もみじ山で、この夏新たな企画として「薄もみじの中で料理を味わう納涼床」が8月1日から12日まで商工会議所主催で行われました。「夏もみじ光のファンタジー」は、市が県観光連盟と南中野町内会の協力を得て、光のファンタジー昨年秋もみじ祭りアンコールにのせての夏バージョン。夏観光本番を迎えたねぷた祭りにあわせた取り組みで、今回の光のファンタジーでは「巨木の佇まい」、「もみじと水の戯れ」、「山の息吹」、「銀河と紅の木々」の4つをテーマに、幻想的にかつ幽玄の世界を演出しております。中野もみじ山納涼床は、不動滝向いの対岸に納涼床敷を設置、滝と清流、季節用語で薄もみじの中で市内それぞれの仕出し店のお料理を堪能する野趣あふれる至福のひとつ。その昔、山伏が修業した1,400年前から流れ落ちる不動滝、清流中野川のせせらぎ、中野山から時折かける爽やかな風、蝉の歌声、中野川を楽しむ町内の子供たちの水の音、自然のシンフォニーの中でのひとは、自然と一体となるほかでは味わうことのできないところです。

この夏、初めての試みで準備不足もあったことと思いますが、来年も続けてほしいとお声も聞かれます。市におかれましては、秋のもみじと川床についての実施はお考えでしょうか。夏もみじ1日から12日までのお客様の御利用はいかがだったのでしょうか。今後、魅力度アップでの予算は御活用できるものなのでしょうか。お聞かせ願います。

今から133年前の8月5日、イギリス女性旅行家何度も質問いたしておりますが、イザベラ・バードは中野の夏もみじを楽しんでおります。コケむした石段が中野川の岸辺まで通じていること、鳥居や石灯籠、大杉、神社、雪が降るように美しいと滝のしぶきを表現しております。バードが訪れたときとは大分景観も変わっていると思っておりますが、ここはすべてが魅力的であると締めくくっております。夏もみじとイザベラ・バード、何かしら御縁を感じます。

御縁と言いますと、縁結びの大社で知られる出雲縁結び空港を利用し、私たち自民・公明クラブ10名は7月10日から12日まで行政視察として、出雲市、真庭市、大津市と行ってまいりました。出雲市では、社会教育が教育委員会から市長部局に移管された経緯と現状について、議会基本条例制定についてを視察してまいりました。少しご紹介いたします。

出雲市の教育。生涯学習、芸術文化、文化財、スポーツ部門が市長部局への移管。出雲市では、平成13年4月から市議会初め関係機関、市民各層の理解を得て教育委員会の改革を断行し、教育委員会の事務のうち生涯学習や芸術文化、文化財、スポーツなどの部門を地方自治法の補助執行の規定により、市長部局へ移管したとのこと。全国で初めて市内すべての小中学校、小学校36校、中学校13校に地域学校運営理事会（コミュニティ・スクール）制度を導入したところです。学校運営理事会は、自治会や保護者の代表、民生児童委員など地域のあらゆる人材を結集し、学校の応援団として学校運営に参画し、地域・学校・家庭の三者が協同して学校教育活動などに積極的に支援・協力する新しい学校運営システムです。学校側からの報告や説明を聞くだけでなく、学力調査結果、児童生徒の活動状況などについて議論しながら、学習支援、読書活動支援、基本的な生活習慣の育成、登下校の見守りなど、地域を挙げて学校を支援する学校の応援団として機能しつつあるところ、真の「ふるさと学校」実現に向けた取り組みが着実に進められているとのことでした。

ちょうど出雲市は、「神話博しまね」古事記1, 300年の大イベント準備中で、御多忙の中での対応でございました。私も黒石観光大使として、黒石よされ踊りの広告・チラシとうちわをPRしてまいりました。以上、視察についてでございました。

このたびの行政視察出雲市、縁結び出雲空港を訪ねました。何かしらこちらでも御縁を感じます。

2点目は、縁結びのふるさとウェディングの質問に入らせていただきます。

ふるさとウェディングについて、本来日本における結婚式とは、夫婦の和合を神の前に誓い、感謝と加護を願うもので家と家を結ぶ儀式でした。それがウェディングドレスの普及とともにキリスト教式での挙式が急増、昔ながらの神前や仏前での挙式が激減し、キリスト教徒でない新郎新婦がウェディングドレスを着てチャペルで挙式するというスタイルが主流となりました。そして神社やお寺だけではなく、ホテルや専門式場の増加により、生まれ育った地元で結婚式を挙げるカップルが減り、親族が会場に出向くというスタイルが当たり前になったのです。私が上げるふるさとウェディングとは、本来の結婚式のあるべき姿に近づけ、伝統を大事にしようとするものです。結婚式とは、命を受け、無償の愛で産み育ててくれた御両親様や御家族、見守ってくださった御近所様、お世話になった御友人などに成長と感謝、敬意を伝えるものであり、カップルの自己満足ではなく、家と家同士の結びつき、きずなを重んじるものです。

現在、日本では2011年3月11日の大震災をきっかけに、家族や友人とのきずなの大切さ、当たり前のことに感謝しようとする動きが活発になりました。まさに、日本全体が原点に戻ろうとしています。その動きは結婚式にもあらわれており、宗教にとらわれない人前式を選ぶ新郎新婦が大震災をきっかけに急増しています。

全日本ブライダル協会とは、1969年ファッションデザイナー桂由美を会長とし、結婚式の多様化とそのニーズに応えることのできる人材の育成、また婚礼分野の伝統や情報を幅広く発信し、社会に貢献することを目的とし発足いたしました。その中でも、このたびのふるさとウェディングとシビルウェディングの普及に注力している団体です。シビルウェディングとは、昨今の日本のウェディングは多様化する中で、挙式スタイルも神前式・キリスト式に加え、宗教色のない人前式を希望するカップルがふえてきております。

しかし、現在の人前式は各結婚式場が独自で行っており、人前式としての儀式スタイルが確立されておらず、式進行を司会者が行うため儀式としての重要さに欠ける嫌いがあります。日本では、婚姻届は役所に提出するだけですが、欧米では婚姻届署名がセレモニーになっており、市町村のセレモニールームなどで係官や市町村長または国が資格を与えた司式者によってとり行われます。そして、この式は婚姻の法律上の手続きを完了させることが目的なので、シビルウェディング（市民結婚式）と呼ばれています。

全日本ブライダル協会でも法律上の婚姻成立を第一主義と考え、結婚式の前に役所に婚姻届を提出し、その長が発行する婚姻届受理証明書を司式者が読み上げ、参列者一同に披露するセレモニーを新時代の挙式シビルウェディングとして提唱しております。

シビルウェディングで式進行をつかさどる者をシビルウェディングミニスターと呼び、地域や社会に貢献し人格者として認められる者にのみ与えられる称号です。現在、日本全国には529名のミニスターがおり、各地域で活躍されております。また、シビルウェディングの企画を行う者をシビルウェディングディレクターといい、日本全国で145名が活躍しております。

市の観光スポットにおけるウェディング、歴史的建造物におけるウェディング、星と森のウェディング、黒石はほかには見られない自然環境と町中歴史的建造物がコンパクトに見られるところです。町中が祝福するふるさとでのウェディング。日本を黒石を元気にするブライダルのあり方として、ふるさとウェディングのコンセプトを普及します。そのためには、事例づくりが不可欠です。業界のオピニオンリーダーや結婚適齢期の男女に対して、ふるさとウェディングは素敵な選択であると直接的に伝えます。

モデル事業の実施。市の観光スポットにおけるウェディング、美しい名所や建造物などを舞台としたふるさとウェディングのモデル的な実施を重ねることができます。ふるさとウェディングにより、若者のふるさとへの関心を高め、ウェディング業界を活性化し地域経済の再生

を連鎖的に起こすためには、業界と自治体、プロデュース会社、メディアと有機的に連携し、ふるさとウェディングの仕組みを構築することができます。地域資源を生かしたふるさとウェディングの企画、実績、モデルケースを賞賛するためにコンテストを実施します。

ウェディング業界、ウェディングプロデューサー、プランナー、ディレクターなど関係者を対象としたセミナーを実施し、知を共有します。ふるさとウェディングの挙式費用の一部を開催した伝統的建造物や地域資源の保存活動の費用として活用されるように基金を開設する事も考えられます。他県の方が青森、黒石を愛し、それぞれに心を置いた思い出の地にてのウェディング、リゾートウェディングもこれから発達して行くことと思います。

あずましの里黒石、黒石は星も水も緑も、歴史的な建造物、庭園も、春の桜もりんごの花も、秋の紅葉も、赤く色づいたルビーの玉を思わせる鈴なりのりんご園も、全てがふるさとウェディングのステージです。ふるさとウェディングのベルを高らかに響かせましょう。日本の伝統文化でもある挙式、ふるさとウェディングに御理解をいただきたく、地域活性のためにもぜひともこの黒石の地でのセミナー開催に御協力を願うものです。

3点目、次は観光資源PR活動について、市の対応策についてでございます。

このように豊富な黒石市の観光資源を生かすためには、マンパワーも大きな力となっていくものと考えているところでございますが、観光ボランティアの皆様方は積極的に活動を展開し、市の観光振興に大きな役割を果たしておりますが、市民一人一人の意識を高めることも大きな力になっていくものと考えます。どうか、そのためにも市職員一人一人が市の観光大使という意識を持って、観光振興やPR活動を積極的に推進することが市の活性化に寄与するという意識づけが非常に重要であると考えますが、市としてはそのような取り組みに対する考えはないのでしょうか。民間任せだけでは市の活性化は難しいと思いますので、市職員の一層の奮起を期待するものでございます。

例えば、市の祭りなどに積極的に参加することはもちろんでございますが、家族や個人的な旅行などをしたときに、その先々で黒石市をPRしてくるなどが考えられます。そのためには、名刺などにも一工夫があつて、受け取った方々に一度は黒石へ行ってみたいと思わせるような仕掛けも必要なのではないでしょうか。そのような活動が総合的に進められてこそ、真の活性化になるのではないのでしょうか。職員一人一人の地道な活動がいずれ大きく花開くことになると思います。私自身、津軽黒石観光大使として、自らが観光資源であると思いを深く活動いたしております。以上でございます。ありがとうございました。これで壇上からの一般質問を終わらせていただきます。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 自民・公明クラブ黒石ナナ子議員に、私からは中野もみじ山新事業、夏に実施した納涼床は好評だと思っているが状況はどうであったか、また、これから迎える中野もみじ山の紅葉シーズンでの実施はどうかということで、お答えをしたいと思います。

黒石商工会議所が主催した納涼床については、8月1日から12日まで12日間開催しましたが、188人の方々が食と涼を楽しみ、利用者の反応も上々であったとかがっております。中野もみじ山の紅葉は、人気が高く、JR東日本、青森県観光連盟も着目し、ことしは「黒石にも小さな嵐山がありました」をキャッチコピーに首都圏の主要駅を中心に750枚以上のポスターを掲示により、PR支援していただいているところでもありますので、黒石市としても一味違った魅力を提供したいと考え、紅葉の川床を設置するよう準備を進めているところであります。

紅葉床については、家族連れやグループでの利用ができるよう1床6人程度とし、3床を設置し、次年度以降も再設できるような構造を考慮しているところであります。また、紅葉の川床での昼食会など、中野もみじ山でしか味わえないプレミアム感のある企画を目指してまいります。

降壇

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からはふるさとウェディングについて、お答えをいたします。

黒石市のさまざまな観光スポットや歴史的建造物等を会場に、これまでの形式にとらわれない新しい形での挙式を行政もかかわって行えないかという御質問と受けとめましたが、ブライダルにつきましては、民間の役割と行政の役割を十分検討する必要があるほか、シビルウェディングにつきましても、当地ではまだなじみのない形式でございます。したがって、誘客促進策としても効果が期待できると考えますので、行政としてのどのようなバックアップができるのかを含めて今後研究させていただきたいと思っております。以上です。

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは職員の観光PRいわゆる黒石のPRについてお答えいたします。

観光PRに関しての御質問については、さきの6月議会でもお答えいたしましたが、特に観光PRに配慮した名刺についてでございますけれども、職員が使用する名刺につきましては職員一人一人が考えたデザインの名刺を職員の自己負担で作成するなどして、市内外で名刺交換の際に使用しております。また、黒石観光協会であっせんしている台紙もございまして、それには黒石市内の名所をデザインしているほか、つゆヤキノパンを初めとする、ゆるキャラ「ク

ロイシックス」を取り入れた名刺などもございます。

公務外や休日でも観光PR活動をとのことにつきましては、観光情報の発信の一つの手段として有効であると思います。各職員に対し、プライベートタイムまでは推奨しておりませんが、あらかじめそうした場面が想定される場合につきましては、十分活用してもらえよう配慮していきたいと考えます。以上でございます。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。3番黒石ナナ子。

◎3番（黒石ナナ子） 理事者側の誠意あるお答えありがとうございました。特に新事業である中野川の川床は非常に人気がありまして、秋もやっていただきたいというお声が多かったので、このたび質問してみました。ありがとうございます。

そして、ふるさとのシビルウェディングなんですけど、これは市民のための結婚ということで、我が日本では結構福井県とかいろいろ山梨県とか、知事さんとかあるいは市長さんが行政側の方からお立ちになって、ミニスターになっていただいて素敵なウェディングを全国に紹介しております。今、私がこの議場で一般質問いたしました。青森県では行政としては初めてだと思います。企画財政部長さんが前向きに考えるということですので、前まで言ってませんか、とても進めたらいいなあと考えております。

それと市民の一人一人の観光PRということ、結構皆様方お祭りがあると市職員の方が結構お並びになって盛り上げてるということは、非常に私も感動しております。でも、それ以上にもっともっと1人でもふやして、変わった名刺とか何かで黒石を盛り上げてPRしたらいいなあと前から思っておりました。農林部長さんからいいお言葉いただきましてありがとうございます。以上でございます。ありがとうございました。

◎議長（中田博文） 答弁いらないのですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◎議長（中田博文） 以上で、3番黒石ナナ子議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 次に、9番大溝雅昭議員の登壇を求めます。9番大溝雅昭議員。

登壇

◎9番（大溝雅昭） 皆さん、こんにちは。自民・公明クラブの大溝雅昭です。

先週の8日、9日の土日、黒石こみせまつりが開催されました。あいにくの雨で消防団の観閲式は中止になりましたが、御当地グルメややきそばサミット、軽トラ市や宮古市支援ショップ、黒石商業高校の模擬店などいろいろな店が並びました。また、黒石津軽家の宝物展が7年

ぶりに行われましたし、金平成園の一般公開も行われました。私は、津軽太鼓の競演の手伝いをしておりましたが、雨の中何とか行うことができました。せっかく練習してきた子供たちをがっかりさせずに済み、安堵しております。こみせまつりは、「市民が主役！手づくりのまちなか文化祭」のコンセプトが生きており、こみせを核としたまちづくりに寄与すればと思います。

また、7月に行政視察で出雲市、真庭市、大津市に行っていました。先ほどの黒石ナナ子議員のほかにも各議員より報告や質問が出ております。私が一番印象にあるのは、真庭市のバイオマスタウンの取り組みです。産業観光部にバイオマス政策課を設け、予算と人を張りつける。これをやるんだという市長の考えの方向性が明確でわかりやすい。そして、先日国でもこの取り組みに予算をつけるという新聞報道がありました。次年度概算要求で農林水産省の特別重点枠にバイオマス産業都市の構築で45億円が出ておりました。まさに、地方の事業が先行し、国が後ろからついてきた事業であります。地域の歴史的産業の林業を守り、発展させ、時代の先駆けにしていくという取り組み。これを行政が主導し、研究し、実践を行った事業でした。

バイオマスについては、工藤和行議員が質問することになっておりますので、それでは通告に従い私の質問をいたします。

1は、教育問題についての質問であります。

まず、アのゆとり教育の見直しについて。

ゆとり世代イコール物を知らない人という使い方がこの間テレビでされていました。ゆとり世代は、今約15歳から25歳、2002年度（平成14年度）学習指導要領の改定により教育を受けた世代であります。詰め込み教育、落ちこぼれ等の問題の見直しでゆとり教育というものが生まれてきました。しかし、国際機関による学習到達度調査（PISA）により、トップクラスだった日本の順位が落ちてきている状況が報道され、これに衝撃を受け、ゆとり教育の見直しが議論されるようになりました。

2011年度正式に脱ゆとり教育が始まったとされています。ゆとり教育は、どのように見直されているか。学習指導要領は、どのように変わってきているのでしょうか。授業の時間数、総合学習の時間と内容、土曜日の児童生徒の過ごし方について質問をいたします。

次は、イの必修となった武道とダンスの状況について。

4月から必修化された武道とダンスは、指導者の問題、道具の問題などが前回の議会でも指摘されておりました。武道とダンスの必修が始まって、現状はどうか。課題は解決されているのか。生徒の反応や成果について質問をいたします。

次は、ウの通学路の危険箇所について。

通学路の調査が行われました。学校やPTAがハザードマップをつくる例はありましたが、教育委員会と警察、道路管理者等が共同で調査する形は今回が初めてです。ことしの春に、全国で何度か通学の児童が巻き込まれる痛ましい交通事故がありました。今回の調査は、それらを受けてのことだと思います。今回の調査で危険箇所の状況はどうだったか。対策については、どうするのか質問いたします。

また、西部地区の通学路では、西ヶ丘の交差点から踏み切りまでの間が非常に危険となっております。旧国鉄の線路跡が道路として整備され、歩道も整備されました。しかし、学校側から踏み切りまでがそのまま、交通量がふえたため、かえって危険となっております。西部地区の地区要望でも一番の要望となっております。危険防止のため、踏切の拡張を含め対策について質問いたします。

2は、夏祭りの結果と課題についての質問です。

まず、アの黒石ねふた祭りについて。

ことしの祭りの結果はどうだったのか。新しい試みなどがあったのかについて質問いたします。また、ことしのねふた祭りは、先ほどの大久保議員からもありましたが、67台の参加で人形ねふたが8台参加いたしました。人形ねふたの助成金が復活し、団体は助かっていると聞きます。私からも感謝申し上げます。少子化と経済の低迷で、参加団体の状況はますます厳しいものになっています。しかし、新規がふえないと人形ねふたの台数はふえません。この状況では、減ることはあってもふえることはやはり難しいと思います。新しく挑戦する団体を刺激し、応援することが必要です。新規に対する補助も復活できないか質問いたします。

イの黒石よされについて。

ことしの祭りの結果はどうだったのか。参加者、観光客の入り込み数は。宿泊施設の入り込みはどうだったのかお知らせください。よされのやぐらは建設協会の協力で建つことができたとのことですが、来年の展望はどうなのでしょう。黒高隊が流し踊りのスタートを盛り上げることが定着してきました。非常によいことだと思います。将来を考えても、子供たちや若者の参加をふやす方法はもつとないのか質問いたします。

私は、黒石市のねふたは黒石の宝物だと考えております。黒石は都会と比べるとまだ田舎で隣近所のつき合いもあり、コミュニティーが素晴らしいと言われます。それには、ねふたが大いに関係していると考えます。ねふたがなければ町内の先輩や年寄りの方々と若者が飲んだり、話をする機会はないでしょう。また、自分の子供と同世代の子供はわかっている、それ以外の子供のことはなかなかわからないものです。ねふたは、地域コミュニティーをつくる大きなツールなのです。ねふたを出すのが目的ではなく、ねふたを出すことにより町内のいろいろな人とのかかわりやきずなができ、世代を越えたコミュニティーが深まる。これこそが、ねふた

祭りの目的なのです。今はいろいろな事情でねぶたを続けることが難しくなっています。しかし、私はねぶたを減らさない、単体でできなければ共同で行うなど、団体の形を変えてもねぶたを守っていくことが必要だと考えます。市側でもできることは協力していくべきだと考えます。黒石のコミュニティーを守ってきた大切なツールがねぶただからであり、私は黒石のコミュニティーこそが黒石の守るべき最大の黒石の誇りだと考えております。

3つ目は、市民と協働の取り組みについての質問です。

アは、市長への手紙、出前講座等の利用状況と内容について。

市長への手紙、出前講座等の利用状況と内容はどうなっているのか。充実しているのかどうか質問いたします。これらのほかに市民が参加、参画できやすい状況にどのように取り組んでいるのか質問いたします。

イは、懇談会やパブリックコメント等の取り組みについて。

市と地域住民が協働で取り組むために、地区、町内会等との懇談会やパブリックコメント等市民の意見を収集できる方法を構築してはどうか質問いたします。

ウは、各種団体との対話集会、昼食会等の開催について。

市と各種団体が協働で取り組むために、各種団体等との懇談会、定期的な昼食会を開催し、意見を収集できる方法を構築してはどうか質問いたします。質問のポイントは、行政と市民との協働、ともに働くということです。協働とは、異なる主体が何らかの目的を共有し、ともに力を合わせて活動することです。行政やNPOの現場でパートナーシップのあり方を表現する概念として使われ、地域社会を考えていく上での重要なキーワードとなっています。少子高齢化と経済の低迷は、税収の低下を招き、地方交付税も減っていきます。少ない財源で効率的に市民サービスを行うには、やはり行政と市民、地域住民や市民団体、NPOなどとの協働が不可欠になるということです。協働の意味が少しでも理解していただけでしょうか。

さて、最後になりますが、ことしの夏は本当に暑過ぎました。りんごには日焼けの被害が出ていると聞きます。稲も品質の低下が懸念されております。これから、収穫の秋を迎え、実り多き秋になり、台風などの災害に見舞われないことを祈りながら、壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 自民・公明クラブ、大溝雅昭議員にお答えをします。

私からは、市民と協働ということについてお答えしますが、私も大溝議員同様、行政と市民協働という大事さ、私は重く受けとめたいと思います。できるものならば市民との対話、

昼食、コミュニケーションを通して、さらにさらに連携を深めていかなければならないということは言うまでもないと思いますけども、今までの私の経験からしてなかなか思うようにはいかないのが現実だということだけは、冒頭申し上げながら努力をしまいたいと思います。

地区及び町内会からの意見を収集する施策として、現在地区要望・提言を実施しておりますが、各地区からの提出された内容は大半が道路・側溝の整備や施設整備などに関する要望であります。対話集会などにつきましては、随時各種団体等に出向き、意見交換を行っております。また、パブリックコメントにつきましては、各種計画等の策定に当たり、市のホームページや広報及びマスコミを通じて意見募集を行っておりますが、最近の例としては旧農林総合研究センター等利活用検討委員会において、市の素案を公表した上で市民から広く意見を募集したところ、さまざまな提案が寄せられております。

今後は、制度設計も視野に入れながら、積極的に進めていく方針であります。議員提案の懇談会や昼食会などにつきましては、ただ単なる陳情の場とならないような仕組みづくりを含め、実施の方向で具体的に取り組んでいきたいと思っております。

降 壇

◎議長（中田博文） 教育長。

◎教育長（横山重三） 大溝議員の必修となった武道とダンスの状況について、お答えいたします。

武道については、市内の中学校4校のうち3校が柔道を、1校が柔道と剣道を学習する計画で、1校が7月から、後の1校は8月末から学習を始めており、残りの2校は10月と11月から実施することとなっております。武道の指導に当たっては、昨年度までの3年間、保健体育指導の全教員が県教育委員会主催の武道伝達講習会の受講を終えており、また、今年度県教育委員会では柔道安全指導研修会を実施し、安全対策に万全を期しております。具体的には5月下旬に保健体育の教員が、全日本柔道連盟で研修を受けた講師から安全に留意した柔道の指導についての実技研修を終えており、それ以降に授業を行っているということでございます。用具については、体育館で柔道を実施するに当たり、2校で衝撃を和らげるマットを購入し、安全確保を図っております。いずれにしましても、安全第一に柔道の授業を進めてまいりたいと考えておるところでございます。また、今のところ問題点の報告は受けておりません。

ダンスについては、フォークダンスや創作ダンス、現代的なリズムのダンスなどを学習することとしており、4校とも全学年で計画しております。指導に当たっては、指導方法を研修したり、外部指導者を依頼して行っております。用具については、特に問題なく学習を進めているところとうかがっております。

武道の授業では、武道を通じて自分で自分を律する心をあらわすものとしての礼儀を守るとともに、相手を尊重し、我が国固有の伝統と文化に触れることを目指しており、きっとこの成果が上がっていくものと考えておるところでございます。以上です。

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、市民と協働の取り組みについての市長への手紙と出前講座等の利用状況、内容についてお答えいたします。

市長への手紙につきましては、開始当初の平成14年度には151件でしたが、過去5年間の平均は33件となっております。また、広聴ポストにつきましては、近年では10件近くの意見等が寄せられています。内容につきましては、観光・商工関係そして市職員の対応に関するものが上位となっております。

出前講座ですが、平成11年度から開始し、当初は20件程度でありましたが、過去5年間の平均は34件となっており、同一団体等で毎年定期的に利用していることもあり、市民に定着しているものと考えております。内容につきましては、健康関係の講座に対する申し込みが多くなっております。

これらのほかに市民が参加・参画しやすい環境づくりとしましては、審議会等の委員の公募、それから黒石市旧農林総合研究センター等利活用検討委員会の会議を公開式で行っていることなどが挙げられます。

第5次黒石市総合計画のまちづくりの目標として、「市民と行政がともにつくるまち」を掲げていることから、今後も市民が参加・参画できやすい環境づくりに努め、協働の取り組みがより一層図られるように進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、黒石ねぶた祭りと黒石よされについての2点についてお答えいたします。

まず、黒石ねぶた祭りにつきましては、ことしの祭りの結果、新たな試み、新規に対する補助の復活のこの3点の御質問であったと思いますが、まず1つ目の祭りの結果を総括いたしますと、ことしの黒石ねぶた祭りは人形の部で8台、扇の部で59台、合計67台の出陣となり、7月30日、8月2日の合同運行では約6万人の集客で昨年と同等程度ではございますが、こみせ通りなどでは、ねぶた灯ろうも展示されたことに伴いまして、県外の観光客などからは大変好評を得ているところであったとうかがっております。

ねぶた祭りの新たな取り組みとしては、先ほど大久保議員にもお答えしておりますが、ねぶたを製作していない町内会の子供が自由に参加できるよう受け入れ団体を募り、ことしは6団体で数十名が自由参加していると聞いておりますので、今後もこの受け入れ体制の環境整備に

つきまして、黒石青年会議所と協議してまいります。

次に、人形ねふたを新規に製作する団体等への補助金についてでございますが、減少対策として今年度復活させた黒石市人形ねふた製作運行奨励補助金の内容も含め、今後の検討課題とさせていただきます。

次に、黒石よされについて、これも3点御質問があったと思いますが、まず参加者、観光客の入り込み数、宿泊施設の入込み、これらについてお答えいたします。

主催者発表によることしの黒石よされ踊り子数は、8月15日、16日の両日で4,000人となり、昨年と比較して900人の減となりました。黒石よされの入込み数は、8月14日で6,000人、8月15日で4万3,000人、8月16日で3万6,000人と合計では8万9,000人となり、昨年と比較して1,000人の減となっております。また、8月の黒石市全体の宿泊施設入込み集計はできておりませんが、黒石温泉郷じゃらんネット宿泊推計では9施設で781人、昨年の8月の919人と比較して138人ほど減少しております。

次に、やぐらの展望と若者の参加をふやす方法等についてでございますが、来年度のやぐらの設置、それから高校生も含めた若者が参加しやすい環境づくり、黒石よされの方向性も含め先ほど御答弁いたしましたように、黒石よされ実行委員会とまずことしの結果を総括して、十分協議してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 教育部長。

◎教育部長（久保正彦） 私からは、教育問題についての通学路の危険箇所について、お答えいたします。

本年4月以降、登下校中の児童の交通事故が相次いだことを受け、文部科学省から国土交通省及び警察庁の協力により、緊急合同点検等を実施するよう要請がありました。このことから黒石市教育委員会では、黒石警察署、県等の道路管理者に協力をいただき、学校、PTA、地区協議会及び市関係者と合同で市内の各小中学校の通学路の危険箇所の点検を実施いたしました。8月20日から23日までの4日間にわたり、小中学校12校34箇所の現地を調査し、その後対策内容の検討会議を開催し、それぞれの関係機関において必要な対策を講じていくことを確認しております。主な対策としては、警察署による横断歩道の新設や移設、道路標示、信号機の待ち時間の調整、また道路管理者による防護柵等の設置、側溝のふたかけ、歩道の確保、その他として防犯灯の設置や調整などとなっております。今後も関係機関と連携して通学路の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

また、西ヶ丘地内の踏切の場所につきましては、学校からも踏切前後の安全確保の要望があり、合同点検の対象として現地を確認しております。当面の対応としては、学校から児童への

指導を徹底することで注意を促してまいります。以上でございます。

◎議長（中田博文） 教育委員会理事指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（小田切敦） 私からは、ゆとり教育の見直しについてお答えいたします。

新学習指導要領では、各教科において基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それを活用する学習活動を充実させることができるよう各教科の授業時数が増加されており、小学校では6年間で国語が84時間、社会が20時間、算数が142時間、理科が55時間、体育が57時間ふえました。中学校では3年間で国語が35時間、社会が55時間、数学が70時間、理科が95時間、保健体育が45時間、外国語が105時間ふえました。

学習内容では、言語活動、理数教育、伝統や文化に関する教育、道徳教育、体験活動、外国語活動の充実を重要事項としたことに伴い、例えば小学校ではことわざや古文、漢文など古典に関する学習内容がふえ、中学校の外国語では3年間で習う単語が900語から1,200語にふえました。また、各教科の時間数増加に伴って、これまで総合的な学習時間でも行われることが期待されていた教科の知識・技能を活用する学習活動は、おのこの教科の中で充実することになっており、総合的な学習の時間の授業時数は小学校で150時間、中学校で20から145時間減りました。しかしながら、総合的な学習の時間の「生きる力」を育むという趣旨や理念はこれまでとは変わっておらず、各学校においては従前と同様に創意工夫を生かした特色ある学習活動を行っております。

新学習指導要領では、ゆとり教育か詰め込み教育かということではなく、「生きる力」をより一層育むことを目指しております。そのため、学校・家庭・地域が相互に連携しつつ、子供たちにさまざまな活動を体験させるため、土曜日の活用等も必要であるという考え方は従来どおりであり、学校週5日制は維持されております。各校においては、地域のお祭りや休日の児童館・公民館の行事に子供たちの積極的な参加を呼びかけ、家庭・地域と連携を深めるよう努めております。

教育委員会としましては、新学習指導要領の趣旨に沿い、学校・家庭・地域が連携しながら、子供たちの「生きる力」を育んでいくことができるよう、これからも指導・支援、協力をしてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。

まずは、ゆとり教育の問題についてですけれども、授業数が大分増加して現場の方は大分忙

しくなっているようであります。ゆとり教育の問題は、結局はゆとりの時間を何に費やすのかということだと思います。時間の浪費や非行の増加、結局ゲームや漫画を読む時間だけがふえているのでは、そういうのが問題になると思います。そして、学力の低下への不安から子供を塾に通わせる親の意識が高くなり、塾の費用が増加しております。そのため、ゆとり教育の導入後、教育費を得るために母親が仕事をせざるを得なくなり、親子の接触が減り、かえって家庭のゆとりがなくなるという話を聞きます。その子供たちは逆に塾通いがふえ、子供たちのスケジュールは非常に過密でゆとりがなくなってしまうという状況も生まれたと聞いております。

また、いま先ほど言ったように土曜日のあり方が議論され始めております。都会の私立校では土曜日は授業であり、公立の学校との学力差が問題となっております。ゆとり教育の当初の目的だった子供たちを家庭に返す、地域に返すということが有効に行われたのでしょうか。家庭や地域にその受け皿があるのでしょうか。親にお金の余裕と送り迎えの時間の余裕があれば、塾通い、スポーツクラブ、部活動等有意義に過ごしている子供もあるでしょう。しかし、黒石市で土曜日の児童生徒はどのように過ごしているのでしょうか。その辺、調査する必要がある、そしてまた受け皿を多面的に考えていく必要があろうかと思っております。土日は学校そのものには入れませんし、黒石には図書館もなく、図書室のスペースは非常に限られている状況です。土曜日の児童生徒のまず実態調査を把握することが必要だと思います。その辺について考え方、答弁をお願いいたします。

次に、ねぷたについて。

人形ねぷたの新規の助成金は、休止前はたしか30万円ぐらいだったかなあと記憶しております。これがあったからといって急にねぷたが何台もふえるわけではないのですけれども、1年に1台でもふえればというのが実情だと思います。やめる団体もこれから出てくるかもしれないので、金額で言えば1年当たり数十万円程度の増加という実態になるかと思っておりますので、そのぐらいであれば対応できると思いますので、御検討をお願いいたします。

次に、協働について。

先ほどから市民との協働ということを取り上げております。例えば、前回の議会でも取り上げましたカラス対策の問題、誰のせいでもないけどみんなが困っている。市民は市役所に行ってもだめだと諦めているのか、苦情も来ていない。市の方でも自分たちの直接の責任ではないし、範囲が広く、役所だけで何ができるのか考えあぐねている。観光にもマイナスになっている。こういう問題こそ、市と市民が協働で解決すべき問題の1つではないのかなあと思っています。役割を分担し、市民はごみ出し等の責任と役割をはっきりさせる。市はカラスの習性、ねぐら等の情報を収集する。そして市民と一斉に町なかのねぐらからカラスを追い出す。部分的に市の職員が対策を講じてもカラスは移動するだけですから、やはりこういうことこそ市民・

町内・地域と一斉にやらなければ実際意味がないわけで、そういう取り組みが協働の1つなのではないかと考えます。

行政と市民、団体や企業も含めて協働について取り組む方法が、やはりこれからは必要なのではないかと考えますので、もう一度お考えをお尋ねいたします。以上、よろしく申し上げます。

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 協働の関係であります、先ほども申し上げましたとおりですね、これまで努めてきたこと、そしてまだまだ足りないこと、さまざま問題になっていることも行政側でも捉えております。といいますのはポイントは1つですね、なってくるのは情報の共有ということにあるかと思えます。そういう面で、広報の仕方・あり方もですねいろんな広報媒体があるわけですけども、そういうものも市民に平たく簡単に理解いただくための方法、その手法もですね今後さらに研究していく、工夫していく必要があるかと思っております。先ほどカラス対策問題を1つの例にして述べられておりますけども、そのほかの問題につきましてもですね行政と市民の協働のあるべき姿を探って、よりよい市民のための行政を突き詰めていきたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（中田博文） 教育委員会理事指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（小田切敦） 最近の本市の子供たちの土曜日の過ごし方についてですが、家庭によってばらつきがありますけども、家で過ごす、議員御指摘のように習い事に通っている、近くの公民館行事に参加する、それからいわゆるスポーツ少年団に参加するという多種多様でございます。中学生につきましては、ほとんどの子供たちが部活動に参加するほか、そのほかとして塾や習い事、それから自宅で過ごしているという結果を得ております。学校では、いわゆる土日のPTA活動の計画に当たってもですね、親子共同体験というようなものをキーワードとして行事を作成したり、公民館事業としましては子供や親子向けの講座を実施しております。

土日の過ごし方については、本来家庭での触れ合いを中心に基本的な生活習慣の確立やしつけなど、家庭の役割や責任を保護者の方が理解していただくことが基本だと考えてはおりますが、土日の過ごし方の選択肢の1つとして、活動の場やメニューを行政や地域で提供することも大事ではないかと考えております。以上です。

◎議長（中田博文） 以上で、9番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時45分 休憩

午後 1時02分 開 議

◎副議長（北山一衛） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、11番工藤和子議員の登壇を求めます。11番工藤和子議員。

登 壇

◎11番（工藤和子） どうも、こんにちは。黒石市民クラブの工藤和子です。

今回は、黒石市立小・中学校適正配置のみについて質問させていただきます。

まず、前段としまして、平成22年4月、教育委員会が黒石市立小・中学校適正配置検討委員会を組織し、学校統廃合の検討がスタートしたわけです。このことは、さきの市町村合併のように、法に基づく国・県の厳しい行政指導によるものなのか、あるいは市の財政事情による要請なのか、単に教育委員会が学習面で独自に計画したものなのかお知らせ願います。

次に、アの答申と方針についてお伺いします。

黒石市立小・中学校適正配置検討委員会による答申は、中央教育審議会、初等中等教育分科会、小・中学校の配置、運営のあり方等に関する作業部会の配布資料による学校の小規模化、大規模化のメリット・デメリットをもとに現在の小学校10校を4校に、中学校を4校から2校として、学校の大規模化を目指し、移行期を0年から10年、長期的には11年以上を経て統合を実施しようとしたものと私は理解しております。

教育委員会は、この答申をもとに地区説明会を開催し、その結果を3月議会で「一定の理解が得られたと認識している」と御答弁がなされていることから、当然答申に沿った適正配置の方針になるものと私は考えていました。しかし、教育委員会の出した適正配置の方針は、統合の期間はもとより、学校単位の大規模校・小規模校のメリット・デメリットを10人程度の限られた学級単位のメリット・デメリットとして比較するなど、答申の内容と大きく相違しているように思えてなりません。教育委員会が有識者として委嘱した検討委員会の皆さんが、約1年半に及び誠心誠意審議し、地区説明会で一定の理解が得られた答申は最大限生かされてしかるべきではないでしょうか。また、方針では統合後の小学校数を答申による4校として、その中に東英小学校が含まれております。東英小学校を当面存続することは、適正配置に記されている通りで妥当なものと理解するわけですが、ただこの場合答申にある統合後の4校の考え方は、東英小学校を除く9校を4校にすると言うのが適当ではないでしょうか。要するに4校プラス東英小学校の5校として考えるのが答申に沿うことになると思います。

以上のことから、統合の期間、統合後の学校数について、もう一度見直しをするべきと考えるわけですが、教育委員会の御所見をお願いいたします。

次に、イの地域住民の意見集約と今後の庁内の取り組みについて、お伺いいたします。

教育委員会は、黒石市立小・中学校適正配置の方針に関する地域住民の意見等の取りまとめ

最後に、現中郷小学校の校舎等についてでございますが、老朽化が進んでいることは十分認識しております。通学路も狭いことから、将来的な課題として検討してまいり所存でございます。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎副議長（北山一衛） 再質問を許します。11番工藤和子議員。

◎11番（工藤和子） 前段に言いましたこの適正配置は、国の事業であるのか、県それから市単独事業であるのかということ。この問題はですね、実はこちらの方の協議会の会議において、初めて皆さんがこれが単独であるというのをわかったそうなんです。非常に市民はですね誤解している部分がありまして、国とか県の事業で国もそれで合わせてやるんだなと思っている人がほとんどで、今回特に私これをやはり市民にはお知らせしなきゃだめだなあっていうことで、前段に加えたわけです。要するに、市単独の事業であるってということがわかりました。本当にありがとうございました。

あの、済みません。私、いっぱいしゃべりたいことがあるんだけど、実はですね非常に今、目まいしてるんです。ごめんなさい。皆さんも注意してください。個人的に本当に目まいして、次の再質問はこの次の議会に持って行こうかなと。ごめんなさい。熱中症とか。

（「がんばれ」と呼ぶ者あり）

はい、ありがとうございます。やっぱり年だなあと思いました。非常に苦しくて、先ほどお昼休みも薬飲んでできましたけれども、ごめんなさい。目まいしてそんどうなんです。ということで、今のこの部分は外してください。あと、いいです。

◎副議長（北山一衛） 以上で、11番工藤和子議員の一般質問を終わります。

◎副議長（北山一衛） 次に、2番工藤和行議員の登壇を求めます。2番工藤和行議員。

登壇

◎2番（工藤和行） こんにちは。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。今議会におきましても、この一般質問の機会を与えていただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

まず冒頭、去る7月、自民・公明クラブ10名で島根、岡山、滋賀3県に渡り、行政視察をいたしましたので、議長のお許しをいただき報告させていただきたいと存じます。

私からは、そのうち岡山県真庭市でのバイオマスに関する視察概要を報告いたします。

真庭市は、人口5万人弱、面積828平方キロうち森林面積約8割で、林家戸数約4,400戸ともともと林業が盛んな地域であり、製造業の25%を製材関係が占めているという林業が主要産業の地域であります。また、昨年黒石で開催されたやきそばサミットにも出店したみ

そ味のひるぜん焼きそばとえば、御記憶の方もあろうかと思ひます。予算規模は、一般会計290億ほど、全会計で490億、自主財源比率23.3%と低く、黒石市との対比でも主要産業が林業と農業という違いはあるが、大いに参考になる事例であると思ひました。

真庭では、その林業の活性化のため、また、他産業への波及をも期して、バイオマスを産業振興の切り口で政策を実施しているということでした。推進体制としては、市長をトップに議会代表、行政代表、産業代表、市民代表で構成するバイオマスタウン真庭推進協議会で事業方針を決定し、事業の実施はその下に設置された事業推進本部が行っている。その事務局はバイオマス政策課という専任の課にあり、関係部局との調整、市民・産業者への支援・協力を行っている。市当局の関与では、国・県や他研究機関と積極的に連携を図り、事業課題を研究するほか直接支援として原料確保のため、林地残材の収集経費に500万、使用先である市民に対してペレットストーブ等の購入補助として2,500万、計3,000万円程度支出している。

ユニークな事例としては、市と観光連盟がタイアップしてバイオマス関連への視察者に対応し、バイオマスツアー真庭と銘打った観光や商業へも波及効果を狙った事業である。22年度実績で93回、延べ2,300人が参加しているとのことである。「やるな真庭」と思ひました。所感としては、地場の産業を守り、発展させようと地域と連携し、専門職員を配し、予算を措置し、頑張っているさまは見事であると記しました。以上、時間の都合上概略の報告となりましたが、詳細な資料を添えて報告書を提出しておりますので、参考にしていただければ幸いです。

では、質問の1点目、視察報告をしたところでもありますので、黒石市におけるバイオマスに関する取り組み状況についてお聞きします。

2点目には、今後の財政運営についてであります。

まずもって、平成23年度決算において一般会計4億5,000万円の黒字となったこと、黒字は4年連続であります。また、各会計連結収支も黒字化、市長初め各部局職員皆様の御努力に対し、深甚なる敬意を表するものであります。さらには、市民各位の絶大なる御協力・我慢に対しましても、大いに感謝すべきものと思ひます。そこで、この黒字となった4億5,000万円、これの使い道をまずお聞きします。

次に、平成24年度も半分経過しようとしているところではありますが、国会は特例公債法案など重要法案を決めずに閉店状態、このような状況ではありますが、23年度決算を踏まえ、今年度の財政見通しをお聞きします。

最後に、市民文化会館について、一部ではありますが再開が現実味を帯びてきた昨今、市民の関心もさらに高まってきております。この再開に当たっての財政上の計画でよろしいので、工事費並びに再開後の経費、起債の返済額これを示していただきたい。また、返済による実質

公債費比率、これに与える影響がどの程度なのか改めてお聞きします。

以上、大きくは2点質問いたしますが、真摯なる答弁をお願い申し上げ、私の壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎副議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 自民・公明クラブの工藤和行議員に、私から今後の財政運営について、3点述べたいと思います。

まず最初には、4億5,000万円の黒字額につきましては、地方財政法の規定により、その2分の1を下らない金額を積み立て、または地方債の繰上償還の財源に充てなければならないとされております。平成21年度から3年間は財政調整基金への積み立てをしてきましたが、今年度は繰上償還に約2億6,000万円を充て、残りについては平成24年度当初予算で3億3,000万円の財源不足を見込んでいましたので、その補填財源といたしました。

今後の財政見通しにつきましては、雪の状況や社会保障費の増加など不確定な要素がありますが、おおむね2億円程度の財源不足が見込まれ、今年度末の財政調整基金残高は約7億円程度になる見込みであります。

黒石公民館部分の再開につきましては、昨年9月議会でもお示ししましたが、平成25年度の工事費として3億9,000万円を想定いたしております。平成26年度以降の経費につきましては、起債の償還が3,500万円程度、運営経費は人件費を除いて4,000万円程度と想定しております。また、実質公債費比率は単年度で0.4ポイント上昇することになります。以上であります。

降壇

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、バイオマスに関する取り組み状況についてお答えいたします。

平成17年3月に策定した黒石市環境基本計画において、黒石市の望ましい環境像として「みんなで創る水と緑のあずましの里くろいし」を掲げ、その実現に向けて、平成22年3月に「黒石市地域新エネルギービジョン 黒石市バイオマス利活用推進プラン」、さらに平成22年10月に「黒石市バイオマスタウン構想」を策定いたしました。その中で、農林業分野では稲わら、りんご剪定枝や間伐材などの市内に豊富に存在するバイオマス資源を最大限に活用していくこととしており、今年度は国の緊急雇用創出対策事業を活用して、バイオマス資源回収の実施試験を委託し、通年での資源収集、資源の水分・比重調査やコスト面の調査を行い、

バイオマスの利活用促進に取り組んでおります。

また、青森県ではバイオマス活用の中でも実現性の高さを評価しているバイオコークスに着目し、平成24・25年度の2カ年で黒石市をモデルに選定したバイオコークス産業創出促進事業を実施しております。その検討組織として、バイオコークス事業化推進委員会を立ち上げ、構成としては県の試験研究機関や近畿大学、岩手大学、県内金融機関のほか当市も参画しており、このことも黒石市のバイオマス構想の推進に大きくつながるものと考えております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎副議長（北山一衛） 再質問を許します。2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） ただいまは、御答弁ありがとうございました。

まず、バイオマスについてでありますけれども、黒石市と視察してきた先の真庭市、人口対比で似ているようだと思うし、挙げましたけれども若干資料見落とししていた部分もありまして、後で見ましたら真庭市大分財政状況がいいんですね。貯金、財政調整基金も88億、実質公債費比率14%台であります。その分、こういろいろな事業に対する自由度が高いのかなあという気もしておりますけれども。質問ではないんですが、今後もこのバイオマスに対しても農林業またほかの産業にも好影響与えるような事業をぜひ展開できるように、事業は財政でもありますけれども、余りお金のかからない知恵を絞った方策も何かできるのではないかなという部分もありますので、ぜひこれからもバイオマスを産業振興の観点からもぜひ進めていただきたいという思いであります。答弁はいりません。

次に、財政運営についてでありますけれども、ただいま御答弁いただいたとおり、今年度も今後まだまだ厳しい財政運営である。そういう中でありますけれども、市民文化会館、25年度から計画してあるということでもありますけれども、なぜ改めてこの実質公債費比率0.4ポイント影響あるかということをお聞きしたかと申しますと、今後この公民館・市民文化会館に限らず財政好転の折にはということで、いろいろな事業を市民も待ち望んでいるところであります。その中で、まだまだ厳しい財政の中でもやはりやるべきことはやらなければいけないんだと、こういう思いでこういう0.4ポイント押し上げるような事業もやられるのだと私は理解しております。でありますので、今後も財政の運営にも注意しながら、ぜひ市民の生活へも目を配った事業展開をしていただきたいのであります。

そこで、大まかにはなるかと思っておりますけれども、今後の実質公債費比率の進展、見直しをお聞きして質問を終わりたいと思います。

◎副議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 実質公債費比率の今後の見通しということでございますので、お答え申し上げます。

実質公債費比率は、平成23年度決算まで高どまりが続いてきましたが、これまでの建設事業の抑制や任意の繰上償還の効果により、平成24年度決算では24%を切る見込みであり、その後も継続的に減少していく見込みでございます。起債の許可が必要とならない実質公債費比率18%未満を目標に、今後も気を引き締めて財政運営に努めていく所存でございますので、よろしく願いいたします。以上です。

◎副議長（北山一衛） 以上で、2番工藤和行議員の一般質問を終わります。

◎副議長（北山一衛） 次に、6番佐々木隆議員の登壇を求めます。6番佐々木隆議員。

登壇

◎6番（佐々木隆） 本日最後の質問者となりました、黒石市民クラブの佐々木隆でございます。議場も暑く、眠くなる時間ではございますが、今しばらく辛抱をお願いしたいと思います。それでは、通告順に従い質問に入ります。

初めに、ごみ減量化対策の中の資源ごみの品目追加についてお尋ねします。

本市では、平成20年1月から廃棄物の排出を抑制し、より一層リサイクルを推進することを目的に家庭ごみの有料化を実施しております。実施後の家庭ごみの排出量は減少し、大きな減量効果ははっきりとあらわれております。特に家庭ごみの中でも、拠点回収による資源ごみが増加しており、市民のごみに対する意識の高揚と協力によるものであると思います。ごみの減量・リサイクルをさらに推進するためには、分別品目の追加を図る必要があると思います。全国的には、徳島県上勝町の34分別があるが、リサイクルできるものは徹底的にリサイクルする分別の徹底だと考えております。燃やせるごみ・燃やせないごみの中には、まだ多くの資源ごみが入っているのではないのでしょうか。そこで、市独自で新たな資源ごみの回収に取り組む必要があると考えるが、考えをお聞かせください。

次に、地区説明会の開催についてお聞きいたします。

全国的にごみの有料化実施後は減量が進むが、その後増加に転ずることが報告されております。全国の自治体の中でも減量が長期に継続しているところもあり、持続している自治体の多くは、行政の積極的な市民への説明会の開催が要因と思われれます。市でも有料化を実施する当初は、年に100回以上の説明会を実施したと聞いております。ごみの減量化対策への地区説明会を実施し、市民への協力をお願いするとともに、今後のごみ減量政策に生かしていくことが大切だと考えるが、市の考えをお聞かせください。

次に、ごみ処理手数料の見直しについてお尋ねします。

ごみの有料化は、循環型社会づくりの実現に向けた取り組みの1つであり、ごみの減量化、リサイクルの推進負担の公平等を目的としており、ごみの減量効果が有料化前に比べ、はっきりとあらわれています。これは市民の協力によるものであり、県内でも有料化が進んできているが、中でも最も黒石市の市民負担が大きいとっております。ごみの減量に対し、市民の協力に応えるためにも、市民負担の軽減を図るべきと思うが市の考えをお聞かせください。

大きな2点目の農業振興策について、お尋ねします。

日本の農業人口は減り続けるとともに、食料自給率の低下、後継者不足、耕作放棄地の増加、輸入農産物の増加など、農業は深刻な現状にあります。市の基幹産業であるりんごと米も衰退するおそれがあり、農業政策は市にとって重要課題の1つであります。急速に進む高齢化、後継者不足が進む地域農業にとって、担い手の確保・育成は非常に重要な施策であります。優良農地の確保や農業を振興し、生産性の高い農業を目指すため関係機関と連携を図り、積極的な支援を展開していただきたいとっております。そこで、担い手及び人材育成の確保事業について、今までの実績と今後の事業計画をお尋ねします。また、新規農業参入者対策についての実績がありましたらお答えください。

次に、農産物のブランド化についてお尋ねします。

近年、テレビ・新聞等で食に関する話題が多く取り上げられ、消費生活においても食品を購入する際、生産者や生産地が大きくPRされている物が多くなり、食品表示が細かくなっております。これは消費者の食への関心が高まっているあらわれであり、消費者が多くの食品の中から、よりよいものを選択することができるようになり、食に対する消費者のニーズの多様化が進んできており、これらのことから市場での競争が激化しています。そこで、ブランド化の確立を目指す動きが活発化し、産地間競争に打ち勝つためには、品質や知名度の向上を図り、農業を元気にしていくことが大変重要と考えております。行政、生産者、農協等が中心となってブランド化に取り組み販路拡大が進めば、農家にとって大きなメリットになるものであり、ブランド化の推進は極めて重要であるとと考えております。

先般、我々会派で北海道岩見沢市へ農産物の流通促進について、行政視察してまいりました。岩見沢市は、石狩川沿いに位置し、広大な平坦地であり、石狩平野の中央にあります。農家1人当たりの平均経営耕地面積は14.2ヘクタールであり、本市とは規模が違い消費拡大や流通に力を入れ、取り組んでいるところでありました。岩見沢市では、農産物消費拡大推進協議会を設立し、委員には、市長、農業委員会会長、農業普及センター長、農協組合長、商工会議所会頭、商店街会長、観光協会会長、物産協会会長、ほかにも団体長が委員となり、専門部会を2つに分け、第1専門部会は地産地消に取り組み、第2専門部会は市外や道外への流通に分かれ、それぞれ事業がされておりました。そこで、本市では農産物のブランド化について現在

どのように取り組んでいるのか、また、岩見沢市では東京都板橋区に常設のアンテナショップを開設し、販売PRされておりました。本市では、アンテナショップの活用の考えがあるのかお尋ねします。

3点目の財政状況と今後についての質問に入ります。

初めに、平成27年度までの財政の見通しについてお尋ねします。

市の財政状況について、鳴海市長はこれまでに何度となく27年度まで全会計の黒字化に言及していますが、これまでは市長初め職員の給与カット、各種委員会、そして我々議員の報酬カットなどにより、一般会計は連続し黒字会計となり、企業会計、特別会計へ資金を繰り出してまいりましたが、このままで経過すると黒字化はもっと早まるのではと思うほど順調に推移しているように思います。

そこでお尋ねします。財政状況は、市長初め職員、そして市民の協力により好転していますが、27年度までには全会計黒字化するという財政健全化計画は、私自身は早まるのではないかと期待するところですが、27年度黒字化という方針に変更はないかお聞きいたします。

次に、28年度からの市の事業計画についてですが、27年度までに黒字化が達成されることになれば、当然28年度以降の計画にも変化が出てくると思います。これまで財政健全化が黒石市の課題であったため、市の施策もおざなりになり、沈滞化した経緯があることは私も承知しています。

そこでお尋ねします。黒字化になって次のステップ、経済等の活性化を考えるのは当然のことです。今議会我々に配付されました監査委員の意見書の中の総括意見として、企業誘致の努力の強化や放棄・遊休農地の活用、農業所得の活用、農業所得者の増収支援強化など、方策超過の提言も盛り込まれています。今後の計画については、第5次総合計画に基づいて実施することになると思いますが、山積みする課題の中から何から始めるのか。優先順位はつけられないと思いますが、どんなことを優先するのか答弁できる範囲で率直に答弁をいただきたいと思います。

最後に、市長はもちろん、我々議員も市民の健康と命を守り、市が元気になればとの思いで精神誠意活動していくことを約束し、壇上からの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎副議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 佐々木隆議員に、私からは財政についてお答えをしたいと思います。

まず最初に、解消しなければならない赤字の総額は、平成20年11月に策定した行財政運営方針での平成23年度決算の計画値は19億4,000万円でありましたが、実績は17億

2,000万円となり、2億2,000万円ほど計画を上回って赤字解消が進んでおります。このまま推移しますと、平成27年度の全会計黒字化は可能であると考えます。

しかし、佐々木議員御案内のように下水道事業の不良債務は多額であります。約13億。初めとして、一番大事なことは27年度まで計画的に繰り出しをしなければならないことや先ほど申し上げたように社会保障と税の一体改革など国の施策に不透明感があります。これは御案内だと思います。ここが我々は今後財政運営に気をつけていかなければならない。地方はどのように思っても、中央のいろんな予算の関係は今までの例を見ると安心できないという、そういう状況も考えておかねばなりません。したがって、予断を許せない状況に変わりはないと考えておりますから、慎重に取り組んでいきたい、そう思っております。以上であります。

降壇

◎副議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） ごみの減量化対策について、お答えいたします。まず、資源ごみの品目追加について、ごみ減量・リサイクル推進のため、品目追加の考えはないかとの御質問でございましたが、現在、市では資源ごみ17品目を回収しておりますが、上勝町のような34の細分化を図ることは受け入れ体制や収集方法などを新たに整備する必要があるとともに、市民の理解と協力が不可欠であることから現時点では困難と考えておりますが、さらに分別できないか検討してまいります。

次に、地区説明会の開催についてでございますが、平成20年1月からのごみ処理手数料導入以来ごみ量は3分の2に減少し、リサイクル量は約2倍になるほど大きな成果を得ております。ごみの減量化に対する市民意識は確実に向上していると考えておりますが、今後のごみ減量化の施策実施に当たっては市民の代表である廃棄物減量等推進審議会や廃棄物減量等推進委員の意見なども取り入れて実施するほか、出前講座等も活用を図ってまいりますので、地区説明会の開催は予定しておりません。

次に、ごみ処理手数料の見直しについてでございますが、導入してから5年近くになりますけれども、減少率も鈍化してきております。手数料の軽減によってごみ減量意識の低下が予想されることから、現在見直しの考えはございません。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、財政関連の御質問で、2点目平成28年度以降のどのような施策の優先をしていくのかという御質問について、お答えいたします。

第5次黒石市総合計画は基本構想と基本計画からなり、それぞれの計画期間は平成23年度から30年度までの8年間であります。

基本計画は前期4年、後期4年に分かれ、現在は平成23年度から26年度までの前期計画

に基づき施策を進めており、平成27年度からの後期計画の中で平成28年度以降の優先順位の高い施策が示されることとなります。後期基本計画策定の際は、前期計画の成果や進捗状況を踏まえ、国の動向や市の財政状況も勘案しながら、個性豊かな活力のあるまちづくりと安全で安心な地域社会の構築を目指して策定作業を進めていくこととなります。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、農業の振興策について、1点目の担い手及び人材育成の確保について、2つ目として農産物のブランド化の促進についてお答えいたします。

まず、担い手及び人材育成の確保についてでございますが、当市の場合主要作目であるりんごに関して青年農業者の育成と担い手の人材確保について各種事業を実施してございます。内訳としましては、財団法人青森県りんご協会に委託し、りんご産業基幹青年事業、りんご剪定士養成事業、りんご病害虫マスター養成事業などがございます。これらの事業の過去10年間の実績では、りんご基幹青年が12人、りんご剪定士が8人、病害虫マスターが14人の計34人が研修を終え、本市のりんご産業リーダーとして活躍しております。

今年度は、これらの研修に合わせて10人受講しており、これからの本市りんご産業の担い手の中心として活躍が期待されております。今後も担い手の増加を図るため、青森県や津軽みらい農業協同組合と連携を取りながら、青年農業者の育成に努めてまいりたいと考えております。

次に、非農家からの新規農業参入者の実績ということでございますが、これにつきましては過去5年間で4人となっております。

次に、農産物のブランド化の促進についてでございますが、まず当市の場合、黒石市のりんごの販路拡大及びPRを兼ねて津軽みらい農業協同組合とともに東京新宿ベジフル株式会社と埼玉県中央青果株式会社を訪問するなどのトップセールス活動を行っており、黒石りんごのブランド化を図っております。また、地元の活動としては黒石市メロン研究会の活動を支援しており、開催している即売会等も毎年好評を得て商品も完売していることなどから、引き続きこうした活動についても独自のブランドになれるよう支援してまいりたいと考えております。

アンテナショップ等の利活用につきましては、議員御提言の先進事例や利用方法などを調査し、検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎副議長（北山一衛） 再質問を許します。6番佐々木隆議員。

◎6番（佐々木隆） 市長の方から、財政の27年度までの黒字見通し御説明ありました。国の

動向がどのように動くかで、非常に地方は厳しいところがあると思います。それには我々議員も市民も一丸となって努力していきたいとそのように思います。

やっぱり、市の税収を上げるというのが一番の目標かなあと。そのためには、農家が元気になってもらわなければいけない。そして、今農林部長の方からも御答弁がありました育成のために県・農協等と一緒にやっていると話しでしたがけれども、やっぱり100億円農業を目指す黒石であります、黒石独自の後継者育成をもっともっと力入れてほしいなとそのように思います。

そして、ブランド化についてですけれども、岩見沢の実例を挙げましたけれども、岩見沢では板橋区にアンテナショップを常設し、職員の方も北海道から出向いて行ってPRなどもしている。そして、そこでは地元の小学校、板橋区の小学校何校だかちょっと今資料忘れたんですけどけれども、そこに学校給食でジャガイモなどいろいろ使われている。それはやっぱり、そういうアンテナショップとかそういう所で、地元の特産物をPRできるそういう場所があるからすごくいいと思うんです。黒石の場合も、東京黒石会そして立川市や中延、そして午前中大久保議員もおっしゃってました愛知県の稲沢市ですか、こういう所ともっともっと交流を深め、そのような販売ができれば黒石の農家の税収も上がっていくのかなあとと思いますので、ぜひそれは進めてほしいなとそのように思います。答弁は、お気持ちをお知らせください。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まず、振興策については、議員御指摘のとおりだと思います。ただ、アンテナショップにつきましては、いわゆる農産物の安定供給、費用対効果とそういうことも全部ひっくるめて、いわゆる先進事例を研究させていただきたいと思います。もちろん、立川市や中延商店街等交流先との物産交流については検討しております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 以上で、6番佐々木隆議員の一般質問を終わります。

◎副議長（北山一衛） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時00分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成24年9月11日

黒石市議会 議長 中 田 博 文

黒石市議会副議長 北山 一 衛

黒石市議会議員 工藤 禎子

黒石市議会議員 工藤 俊 広